

# マノン・レスコー

## Manon Lescaut

オペラパレス | 6回公演 | 全4幕 〈イタリア語上演／字幕付〉

初演：1893年2月1日 トリノ・王立歌劇場

作曲：ジャコモ・プッチーニ Giacomo Puccini (1858-1924)

台本：ルッジェーロ・レオンカヴァッロ／マルコ・プラーガ／ドメーニコ・オリーヴァ／ルイーダ・イリカ／ジュゼッペ・ジャコーザ

Ruggiero Leoncavallo / Marco Praga / Domenico Oliva / Luigi Illica / Giuseppe Giacosa

### 演目選定にあたって

イタリア・オペラの巨匠ヴェルディと並んで、プッチーニのオペラ作品はラインアップに不可欠といえます。日本国内では『トスカ』『蝶々夫人』『ラ・ボエーム』がプッチーニのオペラ上演の上位を占めていますが、3作目にしてオペラ作曲家としての出世作となった『マノン・レスコー』は、甘美な間奏曲をはじめ全幕を通して美しく魅力に満ちた音楽にあふれ、その後の三部作（『外套』、『修道女アンジェリカ』、『ジャンニ・スキッキ』）に繋がる芸術性を感じることができます。オペラにおける“愛の形”は様々ですが、マノンの自由奔放な恋愛観念は、アラベッラやイゾルデ、『椿姫』のヴィオレッタのどれとも異なります。オペラごとに違った“愛の形”をご堪能ください。

### 作品解説

『マノン・レスコー』（1893年初演）は、3作目にしてプッチーニをヴェルディに続くイタリア・オペラの新星たらしめた出世作で、彼自身が“私の最大の音楽的傑作”と呼んだほどの作品です。原作は、アベ・プレヴォーによる当時の人気小説《騎士デ・グリュエとマノン・レスコーの物語》で、既にマスネが同じ題材で《マノン》（1884年）を発表し大成功を収めています。マノンとデ・グリュエの“青春と夢の挫折”を綴る音楽は、むせ返るような情熱に満ち、鮮やかな感情表現ときめ細かな人物表現は、後の名作を彷彿とさせます。〈何とすばらしい美人〉〈やわらかなレースに包まれても〉〈ひとり寂しく見捨てられて〉等のアリアは、誰しもを感動させずにはおかないでしょう。どうぞご期待ください。

#### あらすじ

18世紀、パリにほど近いアミアンの旅籠前の広場。若者が酒場で青春を謳歌している。妖艶で恋に奔放なマノン、父親の意向で兄レスコーに連れられ修道院入りすることになっていた。青年騎士デ・グリュエは、駅馬車から降り立ったマノンの美しさに一目惚れする。好色の老財務官ジェロントがマノン誘拐を企んでいることを知ったデ・グリュエはマノンと2人で駆け落ちしようと説得、友人らの協力を得てパリを目指す。しかしマノンはデ・グリュエとの貧乏生活に見切りをつけてジェロントの愛妾となるが、愛のない空しい日々、デ・グリュエを懐かしむようになる。密かに現れたデ・グリュエと愛を確かめ合っている所をジェロントに目撃され、マノンは姦通と窃盗の罪で国外追放の刑を受け、ル・アーヴルの港の仮獄舎に入れられる。デ・グリュエとレスコーのマノン救出の試みも空しく、マノンは新大陸への流刑船に乗せられることに。マノンへの熱愛がゆえにデ・グリュエは、流刑地への同行を懇願。2人は、アメリカのフランス植民地ニューオーリンズでも問題を起こして荒野をさまよう。飢えと渴きに衰弱したマノンは、為す術もなく絶望するデ・グリュエに永遠の愛を誓い、その腕に抱かれて息絶える。

G. プッチーニ

## マノン・レスコー

Manon Lescaut / Giacomo Puccini

全4幕〈イタリア語上演／字幕付〉

指揮……………リッカルド・フリッツァ  
Conductor Riccardo Frizza

演出……………ジルベール・デフロ  
Production Gilbert Deflo

マノン・レスコー……………スヴェトラ・ヴァッシレヴァ  
Manon Lescaut Svetla Vassileva

デ・グリュー……………グスターヴォ・ポルタ  
Des Grieux Gustavo Porta

レスコー……………ダリボル・イエニス  
Lescaut Dalibor Jenis

ジェロント……………妻屋秀和  
Geronte Tsumaya Hidekazu

エドモンド……………望月哲也  
Edmondo Mochizuki Tetsuya

旅籠屋の主人……………大澤 建  
L'oste Osawa Ken

舞踏教師……………羽山晃生  
Il maestro di ballo Hayama Kosei

音楽家……………池田香織  
Un musico Ikeda Kaori

軍曹……………大塚博章  
Sergente degli arcieri Otsuka Hiroaki

点灯夫……………松浦 健  
Un lampionaio Matsuura Ken

海軍司令官……………森口賢二  
Un comandante di marina Moriguchi Kenji

合唱……………新国立劇場合唱団  
Chorus New National Theatre Chorus

管弦楽……………東京交響楽団  
Orchestra Tokyo Symphony Orchestra

本公演（舞台装置・衣裳・小道具製作：ベルリン・ドイツ・オペラ、フィンランド国立歌劇場からのレンタル）は、ベルリン・ドイツ・オペラの協力により上演されます。

2011.3/15（火） 6：30 3/24（木） 2：00

3/18（金） 2：00 3/27（日） 2：00

3/21（月・祝） 2：00 3/30（水） 6：30

オペラパレス

【チケット料金（税込）】

S：23,100円・A：18,900円・B：12,600円・C：7,350円・D：4,200円

【前売開始】2010.11/6（土）

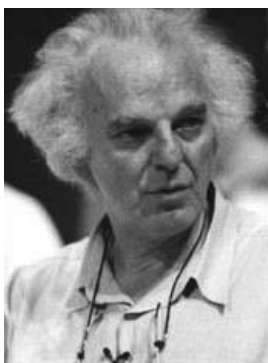
## マノン・レスコー

Manon Lescaut / Giacomo Puccini

指揮：リッカルド・フリッツァ

Conductor : Riccardo Frizza

イタリアのブレシャ生まれ。1994年から2001年までブレシア・シンフォニー首席指揮者を務める。これまでにメトロポリタン歌劇場、ワシントン・オペラ、ザクセン州立劇場、モネ劇場、ローマ歌劇場、フィレンツェ・テアトロ・コムナーレ、ロッシーニ・オペラ・フェスティバル、エクサンプロヴァンス音楽祭などに出演。『アイーダ』『リゴレット』『運命の力』『愛の妙薬』『ドン・ジョヴァンニ』『魔笛』『コジ・ファン・トゥッテ』などを振っている。今後の予定としては、ベルリンで『イタリアのトルコ人』、メトロポリタン歌劇場で『アルミーダ』、フィレンツェで『ドン・パスクワレ』『マノン・レスコー』などがある。新国立劇場には05年『マクベス』、08年開場10周年記念特別公演『アイーダ』、09年『オテロ』に続き4回目の登場となる。



演出：ジルベール・デフロ

Production : Gilbert Deflo

ベルギーのフランドル地方生まれ。ブリュッセルで学んだ後、ミラノ・ピッコロ・テアトロで、ジョルジョ・ストレーレルに師事、現在まで通じる芸術的原点となる。フランクフルトでの『3つのオレンジへの恋』演出を皮切りに、『ボリス・ゴドゥノフ』『セビリアの理髪師』、ハンブルクでの『ル・グラン・マカーブル』、ウェリッシュ・ナショナル・オペラでの『影のない女』などを演出。その後、モンテヴェルディからツェムリンスキー『夢見るゲルゲ』に至るまで、150作品ものオペラ演出を手掛けてきた。ベルリン・ドイツ・オペラ、ミラノ・スカラ座、チューリッヒ歌劇場、ヴェローナ野外劇場など、世界の歌劇場を舞台に著名な指揮者や、すぐれた美術・衣装デザイナーと活躍。2009年はパリ・オペラ座で『仮面舞踏会』、バルセロナのリセウ歌劇場で『イル・トロヴァトーレ』などを演出。新国立劇場初登場。

## マノン・レスコー

Manon Lescaut / Giacomo Puccini

### マノン・レスコー：スヴェトラ・ヴァッシレヴァ

Manon Lescaut : Svetla Vassileva

ブルガリア生まれ。これまでにウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、英国ロイヤルオペラ、フィレンツェ歌劇場、ローマ歌劇場、ジュネーヴ歌劇場、ワシントン・オペラ、シカゴ・リリック・オペラなどに出演。『ラ・ボエーム』ミミ、『トゥーランドット』リユー、『マノン・レスコー』タイトルロール、『椿姫』ヴィオレッタ、『リゴレット』ジルダ、『オテロ』デズデーモナ、『チェネレントラ』タイトルロール、『愛の妙薬』アディーナ、『カルメン』ミカエラ、『ルサルカ』タイトルロールなどを歌っている。今後の予定としては、シアトルで『ファルスタッフ』、サンフランシスコで『蝶々夫人』、ウィーン国立歌劇場で『蝶々夫人』と『マノン・レスコー』、ミラノ・スカラ座で『道化師』などがある。新国立劇場初登場。



### デ・グリユー：グスターヴォ・ポルタ

Des Grioux : Gustavo Porta

アルゼンチンのコルドバ生まれ。1996年にブエノスアイレスのコロン劇場でデビュー。これまでにベルリン・ドイツ・オペラ、ライプツィヒ・オペラ、フランクフルト・オペラ、バレルモのマッシモ歌劇場、マドリッドのレアル劇場、スウェーデン王立歌劇場などに出演。『愛の妙薬』ネモリーノ、『ナブッコ』イズマエーレ、『仮面舞踏会』リッカルド、『蝶々夫人』ピンカートン、『西部の娘』ジョンソン、『マノン・レスコー』デ・グリユー、『カルメン』ドン・ホセなどをレパートリーとする。今後の予定としては、ライプツィヒで『アイーダ』ラダメス、デュッセルドルフで『トスカ』カヴァラドッシと『カヴァレリア・ルスティカーナ』トゥリッドウなどがある。新国立劇場初登場。

### レスコー：ダリボル・イエニス

Lescaut : Dalibor Jenis

スロヴァキア共和国生まれ。ブラチスラヴァ音楽院で学び、イタリアに留学。これまでにウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、ザクセン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ハンブルク州立歌劇場、パリ・オペラ座、英国ロイヤルオペラ、バルセロナのリセウ劇場、マドリッドのレアル劇場、ポーロニャ歌劇場、ローマ歌劇場、ロッシーニ・オペラ・フェスティバルなどに出演。『セビリアの理髪師』フィガロ、『椿姫』ジェルモン、『ドン・カルロ』ロドリゴ、『仮面舞踏会』レナート、『マノン・レスコー』レスコー、『ラ・ボエーム』マルチェット、『エフゲニ・オネーギン』タイトルロールなどを歌っている。新国立劇場初登場。



### ジェロント：妻屋秀和

Geronte : Tsumaya Hidekazu

東京芸術大学卒業、同大学大学院オペラ科修了。1994年から2001年ライプツィヒ歌劇場、02年よりワイマールのドイツ国民劇場の専属歌手。今までに、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、デュッセルドルフ歌劇場、スコティッシュ・オペラなどに出演。主なレパートリーには『魔笛』ザラストロ、『トゥーランドット』ティムール、『ドン・カルロ』フィリップ二世、『エフゲニ・オネーギン』グレーミン公、『さまよえるオランダ人』ダーラント、『ばらの騎士』オックス男爵などがある。新国立劇場には『アイーダ』『ファルスタッフ』『フィガロの結婚』『ドン・ジョヴァンニ』『ラインの黄金』『ムツェンスク郡のマクベス夫人』『オテロ』『ヴォツェック』など多数出演している。藤原歌劇団団員。